

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成20年10月29日		
		作成部署	建設交通部 河川課		
事業名	大谷川広域基幹河川改修事業	地区名	八幡市橋本～京田辺市興戸		
概算事業費	370億円	事業期間	昭和38年度～平成50年度		
事業概要	過去から浸水被害がたびたび発生しており、流域では高度経済成長期から市街化が著しく、今後さらに都市機能の集積が見込まれることから、河道拡幅等による改修を行うものである。(L=21.8km)				
目指すべき環境像	流域が持つ歴史・文化、景観、自然環境を保全し、地域の特徴を活かした良好な河川環境の整備を図る。				
関連する公共事業	直轄河川改修事業(木津川)、第二京阪自動車道路事業、新名神高速道路整備事業				
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価	
主要な評価の視点	選定要否				
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)	当該河川は、砂州の堆積する箇所ではヨシ類や雑草が生い茂り、鳥類ではサギ類、魚類ではギンポ、ナ、コイ、オカワなどが生息している。また、重たい改修にあたっては、動植物の生息・生育の場としての良好な自然環境を保全する必要がある。	河川改修では、できるだけ現状の自然環境を守るために、工事着手前には人為的に河川内生物の移動を実施するなど、事前に配慮できることを行う。工事実施時には環境保全型ブロックを使用した護岸整備、河底の瀬・淵形状の復元及びみお筋や寄り石などによって生物の生息・生育環境の保全・復元を図る。 また、本川で定期的(1回/5年)に実施される「河川水辺の国勢調査」などを用いて自然環境の追跡調査を実施し改修に役立てる。	—	
	地形・地質			○	3
	物質循環(土砂移動)			○	3
	野生生物・絶滅危惧種			○	3
	生態系			○	4
	その他			—	—
生活環境	ユニバーサルデザイン	本河川では過去からたびたび浸水被害が発生していることから、河川改修を実施し地域の生活環境を改善に努める必要がある。また、事業の実施に伴い発生する建設廃棄物の低減を旨とした工法を検討するとともに、土砂、既設護岸の取り壊し等には再利用を図る。箇所における工事では、工事中の震動・騒音に配慮した工法を採用する。	河川改修を実施することにより、浸水被害の解消が期待できる。掘削により発生した土砂は、他工事の築堤用土に利用するなどリサイクルを図る。近隣の工事では、低震動・低騒音型の施工機械を採用する。	—	
	水環境・水循環			—	
	大気環境			—	
	土壌・地盤環境			—	
	騒音・振動			○	3
	廃棄物・リサイクル			○	4
	化学物質・粉じん等			—	
	電磁波・電波・日照			—	
その他	○	4			
地域個性・文化環境	景観	大谷川上流及び防賀川中下流域では田畑が広がり田園地帯的風景を残している。大谷川中下流(八幡市街地)及び防賀川上流域(京田辺市街地)では宅地化が進んだ地域であり、八幡市では「たいこ橋さざなみフェスト」、京田辺市では「魚つかみ大会」等の地域イベントが催されるなど、地域住民が川に親しみやすく、景観に配慮した河川環境の創出が必要である。また、大谷川下流部には石清水八幡宮が建立されており、神事「放生会」が行われている。	今後整備予定の防賀川中下流域ではなるべく自然材料を使用した川づくりを実施し、田園地帯的環境を保全する。市街地流域では景観・河川親水空間公園及び水際のアプローチを創出して、八幡宮神事、地域イベント及び住民の憩いの場として活用されてきている。維持管理については「山城うるおい水辺パートナーシップ事業」等を活用しながら、地域住民と協働して行えるよう働きかけを行う。	4	
	里山の保全			—	
	地域の文化資産			○	4
	伝統的行祭事			○	4
	地域住民との協働			○	4
	その他			—	—